

平成20年7月25日

高松市長 大西秀人 殿

高松市牟礼地区地域審議会
会長 濱川 憲博



合併基本計画に係る平成21年度および22年度実施事業に関する
意見の取りまとめについて (回答)

本地域審議会は、平成20年5月22日付け高企第15号で依頼のありました合併基本計画に係る平成21年度および22年度実施事業に関する意見について、慎重に審議を進め、取りまとめましたので、別紙のとおり回答いたします。

意見集約に至るまでの審議の過程において、建設的かつ具体的な数々の意見、提案がありました。第1期まちづくり戦略計画における平成21・22年度事業の調整に当たり、これらの意見の反映について、格段の御配慮をいただきますようお願い申し上げます。

合併基本計画に係る平成21年度および
22年度実施事業に関する意見

平成20年7月

高松市牟礼地区地域審議会

合併基本計画に係る平成21年度および22年度実施事業に関する意見について

地区名：牟礼地区

番号	項目	意見の内容
1	地域包括支援センターの機能の充実	<p>【ネットワークの構築】 身寄りもなく、地域住民との交流の少ない一人暮らしの高齢者が増えてきている中、このような方々の安否確認等も非常に難しい状況にある。地域の高齢者の多様なニーズや相談を総合的に受け止め、適切な対応ができるよう、地域包括支援センターと関係機関が連携したネットワークの構築をされたい。</p> <p>【地域ボランティアとの協働】 現在、特別養護老人ホーム等でのデイサービスは行われているが、要支援1・2、自立と認定された高齢者の中にも地域の地区公民館等で地域の人たちとのふれあいを通して、1日を楽しく過ごしたいと望む声が多い。このような高齢者の要望に対し、現在、地域ボランティアが応えているが、地域ボランティアだけの活動には限界がある。高齢者の心身の健康維持や安定した暮らしを地域ぐるみで支えていくため、今後は、地域ボランティアと地域包括支援センターが協働し、介護予防活動に取り組まされたい。</p> <p>【出前教室等の開催】 地域包括支援センターが中心となり、地域の各種団体や企業を対象に、参加型、体験型の研修会や相談会、出前教室等を開催し、地域福祉とケアに関心を持つきっかけづくりをされたい。</p>
2	福祉避難所の指定と住民への周知	<p>台風、大雨、津波などの災害により被害を受け、または受けるおそれのある者については、応急的に避難所において保護する必要があるが、高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、病弱者等については、一般的な避難所では生活に支障を来すため、福祉避難所において特別な配慮をする必要がある。</p> <p>災害時要援護者台帳の作成とともに、福祉避難所を指定し、その施設の情報（所在地、収容可能人数、設備内容等）を取りまとめ、要援護者へ周知を図ることが重要である。また、防災マップにも、一般的な避難所に加えて福祉避難所も掲載し、広く地域住民に周知されたい。</p>
3	下水処理水循環利用の促進	<p>牟礼浄化苑では、日量6,000tの下水を処理し、そのうち約1,000tを地区内の公共施設のトイレ用水や農業用水に再利用しているという。</p> <p>過去、たびたび洪水被害が発生している本市の状況を踏まえ、貴重な水資源である下水道処理水の有効利用を図るため、今後、牟礼地区内の他の公共施設へも供給を拡大するとともに、民間施設や近隣の屋島東、古高松地区での再生水利用を促進されたい。</p> <p>また、下水道の普及により河川の水量が減少し、干潮時には河床から悪臭を発生している場所もある。現在、処理水のほとんどは、久通港より放流しているが、再生水として河川上流に戻し、河川水量の確保をされたい。</p>

番号	項目	意見の内容
4	児童公園等の整備	<p>牟礼地区内には、開発等による児童公園が30数箇所、また、旧牟礼町が設置した都市公園等が10数箇所あり、そのうち、広域的な公園として、御山公園、中央公園、石匠の里公園がある。</p> <p>御山公園には、大人から児童までが遊べる施設として、テニスコート、ゲートボール場、多目的広場、キャンプ場、多目的ホール、遊具広場(児童公園)が備わっており、さらに遊具広場には駐車場も確保されており、車で来園する親子も多い。また、石匠の里公園には、親子で遊べる芝生広場や遊具も設置されている。</p> <p>一方、中央公園は、主に大人が利用する野球場、体育館、テニスコート等の運動施設が整備されているが、児童が遊べる遊具は設置されていないことから、中央公園南側(王子側)の未利用地(公園の一部)の地形と自然を活かし、児童を対象とした駐車場付きの児童公園を整備されたい。</p> <p>また、現在、川東の埋立地に遊具、休憩所、トイレが設置されているが、周辺の用地も市所有地であることから、今後、ゲートボール場や多目的広場の整備をされたい。</p>
5	飲料水兼用耐震性貯水槽の設置	<p>四国で初めて防災拠点機能を備えた道の駅「源平の里むれ」がオープンし、房前公園とともに市民の災害時一時避難場所として活用できることとなった。</p> <p>ここに設置されている防災トイレは、貯水槽と汚水槽を備え、ライフラインが完全に寸断されても3日間維持できると聞いているが、防火水槽は、通常のものである。</p> <p>飲料水は、人が生きていくのに欠かすことのできないものであり、地震などの災害時に水道管などが損傷した場合に備えて、防火用水と緊急用の飲料水を確保しておく必要があることから、中央公園など市内6箇所を設置している飲料水兼用耐震性貯水槽を、道の駅「源平の里むれ」あるいは房前公園に設置されたい。</p>
6	総合型地域スポーツクラブの育成・支援	<p>むれスポーツクラブは、平成18年3月に設立され、会員数約1,900人の県下最大規模の総合型地域スポーツクラブである。主に牟礼地区内の体育施設等を使用し、各種スポーツ大会やイベント等を開催し、地域住民の健康維持・増進を図るとともに、スポーツを通じた地域コミュニティづくりに寄与している。</p> <p>現在、スポーツ大会等で使用している体育施設は市の直営であり、合併協議に基づき、施設の優先使用や牟礼総合体育館職員による事務局業務など、むれスポーツクラブの活動に対する市の支援をいただいているが、今後、これら体育施設の管理運営が指定管理者によるものとなった場合にも、このような制度が継続できるよう配慮されたい。</p>
7	ケーブルテレビ整備の促進	<p>本年5月から本市防災行政無線システムに総合装置を導入し、FM高松や高松ケーブルテレビ等への緊急時の割込放送ができるようになったと聞いているが、牟礼地区では、一部の団地等を除き、ケーブルテレビがほとんど普及していないし、サービスエリアに入っていない、PR不足もあり、加入者は少ないと思われる。</p> <p>2011年には現行放送である地上アナログテレビ放送が終了し、地上デジタルテレビ放送に移行することもあり、今後、ケーブルテレビへの加入希望者も増加すると思われるので、災害時の迅速な情報伝達の観点から、また、市民の情報格差解消の観点からも、ケーブルテレビの牟礼地区へのエリア拡大を促進するとともに、併せて、公共施設等へのケーブルテレビの整備もされたい。</p>

番号	項目	意見の内容
8	牟礼地区都市再生整備計画の推進	<p>牟礼地区都市再生整備計画については、昨年、道の駅「源平の里むれ」がオープンし、また、現在、これに併設して房前公園も整備されつつあるが、神櫛王墓周辺修景整備、石貼の道、駒立岩南駐車場併設広場、イサム・ノグチ庭園美術館導入広場、市道宮北線、案内情報板、回遊誘導サイン等の整備など、今後の整備計画を明らかにするとともに、確実な事業実施を推進されたい。</p>
9	地場産業の振興と地域活性化施策の推進	<p>牟礼地区の地場産業である石材業の振興を図るため、関係機関と連携し、石材製品のブランド化、高付加価値化に取り組まれない。</p> <p>また、牟礼地区都市再生整備計画の推進はもとより、源平史跡、イサム・ノグチ庭園美術館、石の民俗資料館など、牟礼地区の歴史的・文化的資源を効果的に活用した観光拠点づくりを進めるとともに、石あかりロードなどの交流イベントを更に充実させるなど、牟礼地区の活性化を図るためのハード・ソフト両面からの施策を積極的に推進されたい。</p>
10	おいでまい祭り開催への助成の継続	<p>おいでまい祭りは、おいでまい祭り実行委員会が主催で、毎年、市より300万円の助成をいただき、また、企業や団体、個人からの寄付にも助けられながら開催している。</p> <p>川東埋立地で開催されるようになってから、さぬき市や東かがわ市、三木町からも多くの人々が訪れ、観客数は増加傾向にある。今年から開放される房前公園芝生広場は、花火見物の絶好ポイントで、更なる交流人口増加が期待されている。</p> <p>今後も、おいでまい祭りが未来永続的に開催されるよう、市の助成を継続されたい。</p>
11	遊休農地解消対策の推進	<p>農業者の高齢化等により、耕作放棄地など、いわゆる遊休農地が増加している。農地の遊休化は、雑草の繁茂や病害虫の発生などで近隣農地に悪影響を及ぼすだけでなく、食料の安定の観点からも大きな懸念材料であり、その発生防止、解消に向けた取組みが急務である。</p> <p>市は、関係機関と連携し遊休農地解消対策を推進するとともに、遊休農地の解消にかかる地域の取組みに対し、ソフト・ハード両面からの支援をされたい。</p>
12	市道の整備	<p>屋島線（高橋）の整備については、平成20～22年度まちづくり戦略計画にも明記されているが、当該事業は、牟礼・庵治地区の長年の懸案事項であり、両地区住民の期待も大なることから、早期整備に向け、積極的な取組みをされたい。</p> <p>また、合併基本計画に登載の中代2号線、牟礼中央線、宮ノ前川原線新設・改良事業について、進捗状況および今後の事業実施計画を明らかにし、計画的整備をされたい。</p>

番号	項目	意見の内容
13	コミュニティセンターの整備	<p>牟礼地区には、牟礼公民館、大町公民館、牟礼南公民館の3公民館がある。そのうち牟礼公民館については、公民館と図書館、老人福祉センターが一体となった複合施設であり、公民館部分だけを分離して管理することが困難な状況であることから、市は、コミュニティセンター化対象施設から除き、大町公民館と牟礼南公民館の2館のコミュニティセンター化を予定しているようだが、牟礼公民館は、調理室等の設備も充実しており、また、広い駐車場もあることから、コミュニティ活動の拠点として最適な施設であり、コミュニティセンター化を望む住民の声も多い。</p> <p>現在、牟礼地区では、9月のコミュニティ協議会設立に向け、その準備を進めているが、設立後、牟礼地区コミュニティ協議会として、コミュニティセンターを指定管理者で受託することや、牟礼公民館のあり方について模索することとしているようである。</p> <p>このような状況を踏まえ、牟礼地区における公民館のコミュニティセンター化については、牟礼地区コミュニティ協議会の意思を尊重し、現在の方針を再検討されたい。</p> <p>また、牟礼公民館がコミュニティセンター化ができなくても、同施設を牟礼地区住民が優先使用できるよう配慮されたい。</p>
14	コミュニティ協議会のあり方の検証と今後の協働体制の充実	<p>牟礼地区においても、本年9月にコミュニティ協議会を設立し、市民と行政の協働による地域自らのまちづくりを進めていく計画である。</p> <p>旧高松市域では、既に平成15年度からコミュニティ協議会を設立し運営するとともに、平成18年度からは、コミュニティセンターの管理運営を受託し、さらに平成19年度からは、指定管理者として管理運営を行ってきた。</p> <p>協働とは、市民と行政のそれぞれの得意分野をいかし、相乗効果を生み出すことを目的としているが、ここで一度、現場の声を検証・分析し、今後、更に機能的なコミュニティ協議会にしていくため、コミュニティ協議会運営への支援や市民と行政の協働体制について再検討されたい。</p>
15	合併基本計画への取組みの明確化と適切な進行管理	<p>平成20年度から、「第5次高松市総合計画」の実施計画である「まちづくり戦略計画」の中に合併基本計画関連事業を盛り込み、まちづくり戦略計画の進行管理と併せて、合併基本計画の進行管理を行うとしているが、この計画には合併基本計画関連事業がほとんど掲載されていない。</p> <p>合併基本計画を実現するため、合併基本計画の今後の実施計画を示し、計画に掲げる施策・事業の計画的な実施と適切な進行管理を行われたい。</p>